

もの言う牧師のエッセー・・・第272話

「上っ面の厚労省」

大手広告会社の電通に勤めていた高橋まつりさんが、月100時間を超える残業や上司のパワハラに悩まされ、うつ病を発症し2015年暮れに過労自殺してから一年、厚生労働省による大手企業の違法な残業事件の摘発が相次いでいる。三菱電機に対しては労災認定が出た後、わずか1カ月半で書類送検するなど立件の敏速化も進んでおり、靴販売チェーン「エービーシー・マート」やディスカウントストア「ドン・キホーテ」など大手企業の立件も続いた。厚労省幹部は「政府の動きが社会的関心の高さにつながっている」などと語り、政府による強力なサポートに胸を張るが、笑止千万である。

実は、電通は厚生労働省が定める、誰もが働きやすい「子育てサポート企業」に認められていた。2007年度に始まった同制度は、「計画的に社員の労働時間の短縮に取り組み、家庭と仕事の両立がしやすい環境を整えている」という企業からの“自己申請”をもとに厚労省が選び、すでに約2570社が認められ、赤ちゃんがくるまれているような姿を描いた「くるみん」のマークを広告などに使え、採用面でのイメージ向上につながり、税制の優遇措置があるうえ、官公庁の公共工事や資材納入などでも有利な扱いを受けるそう。

関西電力の課長が、やはり月200時間もの残業に追われ東京都内のホテルで今年の春に自殺したが、何のことはないその関電もその2カ月後“働きやすい企業”に認定された。正に上っ面の政府と制度、それに擦り寄る大企業群、そして虐げられる人々。

**「あなたがたは脂肪を食べ、羊の毛を身にまとい、肥えた羊をほふるが、羊を養わない。
弱った羊を強めず、病気のものをやさず、傷ついたものを包まず、迷い出たものを連れ
戻さず、失われたものを捜さず、かえって力ずくと暴力で彼らを支配した。」**

エゼキエル書34章3-4節、

とあるように、神は、本来は“神の民”であるイスラエルに警告を再三再四発せられたが、彼らは意に介さず亡国への道を突き進んだ。思えばキリストが登場した際、最も非難の矛先を向けたのは世の有力者たちにてであった。だが恐れることはない。今度イエスが現れる時、彼がこの“美しき国”を抱える全ての不条理に決着をつける。だからこそ我々“人々”はキリストを信じる必要がある。キリストを信じる者に泣き寝入りはないのだから。

2016-1-20

